

七日市のおじさんたち、おもしろいよ？



島根県立大学 西嶋一泰ゼミ
吉賀町 七日市公民館
2025.8.23 発行

それいけ！七日市のおじさんたち



おじコレ

吉賀町七日市おじさんコレクション
地域を楽しくするフリーペーパー

2025

はじめに

その地域の魅力を伝えるには、何を紹介するのがよいでしょうか。歴史、名産、名所などありますが、究極は「人」ではないでしょうか。一見、何もない地域でも、その地域を十二分に楽しみながら暮らしている人に出会うと、強烈にその地域が印象に残り、またその人に会いに再訪したくなります。今回は、そんな地域を楽しむ「おじさん」に注目した冊子を制作しました。ぜひご覧ください。

この冊子制作のプロジェクトは、島根県立大学 地域政策学部の西嶋一泰ゼミ2年生15名を中心に、七日市公民館の協力で制作しました。2025年春学期に、1泊2日の合宿を3度行い、取材と制作を進めました。公民館での自炊や寝泊まりもいい思い出です。なにより協力いただいた公民館のみなさま、七日市のみなさまには感謝申し上げます。この冊子が地域の魅力を伝えることに貢献できれば幸いです。

島根県立大学 地域政策学部
講師 西嶋一泰
k-nishijima@u-shimane.ac.jp

目次 おじコレ2025

杉崎 兌治	チェーンソーと作り上げるETSUJIワールド	… 3P
山田 幸則	ユニークさ満点！みんなを巻き込む宴会番長	… 4P
矢富 幸信	野菜の数だけネタがある！しゃべくり農人！	… 5P
斎藤 盛彦	吉賀町のお助けマン！困ったら3110番にお電話を！	… 6P
有田 忍	"モノがないなら作ればいい"～職人・有田 忍	… 7P
田坂 汪	“今がいちばん楽しい”～若さを忘れない仲良し夫婦の毎日～	… 8P
田坂 恵	“今がいちばん楽しい”～若さを忘れない仲良し夫婦の毎日～	… 9P
山谷 徹尚	青春のやり直し、申請は今ここで。	… 10P
稲倉 智	吉賀町で輝く多才な社長	… 11P
水上 真悟	めっちゃ楽しい 地域と子どもをつなぐ、水上さんの挑戦	… 12P
松原 佳毅	目が覚めたら七日市でした ～私の399個の秘密～	… 13P
山崎 慎一	“やる人” がいれば、町は生きる	… 14P
編集後記		… 15P

杉崎 兌治 Sugisaki Etsuji

チェーンソーと作り上げるETSUJIワールド

データ

生年：1941年（85歳）
出身：柿木村
趣味：海釣り(アジ)

よく言われる第一印象
▶変なおじさん
よく居る場所
▶山、田んぼ、家
お仕事何してる／してた？
▶JAに長年勤務
▶現在は農業



自然と共に生きる、手作りモンスター

1946年に柿木村に生まれた兌治さんは、23歳で婿養子に入り、七日市に移住しました。JAで働いたのち、現在は田んぼや山での暮らしや創作活動を楽しんでいる活力にあふれた方です。そんな兌治さんは愛妻家で奥さんと、今回の取材も一緒に答えてくださいました。

相棒のチェーンソーでぶった切る寂しさ

杉崎さんの創作の原点は、定年後に感じた「寂しさ」。そこで始めたのがものづくりでした。例えば、七福神の鳥居をチェーンソー1台で製作し、地元で有名なスポットになっています。その他にも丸太の六角小屋や、庭の池にかずら橋を完成させるなど、地元の自然素材を活かした創作に情熱を注いできました。100本もの梅を植えた梅林もその一つで、「登山客はいないけど、梅はすごいことになってね」と振り返ります。



今俺を突き動かすのはこれだ！

最近は、「時計台」の製作に取り組まれており、杉崎さんのものづくりへの情熱は尽きません。またものづくりのほかにも、旅する蝶と呼ばれる「アサギマダラ」に魅せられ、藤若葉を植え、アサギマダラが訪れるのを楽しみにしているとのこと。自然との交わりは、ただの観察ではなく「遊び」として楽しんでいるようです。

設計図も相談もいらない俺が全部つくる！

杉崎さんの創作には、図面やメモは一切ありません。「頭の中で考えてるから、何にも書かない」と語るように、六角小屋や今後作る予定の時計台も、すべて頭の中で組み上がっています。農地の段差をなくして整地したり、杉の木を見ながら構想を練ったりと、自らの手と頭を使って形にしていくな姿は、まさに「創造の達人」。奥さんは、「気が付いたら何か出来上がっている」と嬉しそうに語ってくださいました。そして、「誰かのためではなく、自分が楽しいからやっている」ときっぱり言い切る姿に、純粋な創作の喜びが表れていました。

→ ユニークさ満点！みんなを巻き込む宴会番長

→ 野菜の数だけネタがある！しゃべくり農人！

データ

生年：1952年（72歳）
出身：吉賀町真田地区
趣味：パチンコ

よく言われる第一印象
▶面白い、飲み好き
よく居る場所
▶家、ごんごんじいのいる所
お仕事何してた？
▶田丸地区自治会長をしてた



データ

生年：1952年（72歳）
出身：吉賀町真田地区
趣味：野菜づくり(ナス、トマト、スイカ、オクラ、落花生…)

よく言われる第一印象
▶真面目
よく居る場所
▶ごんごんじいのいる所
お仕事何してる？
▶田丸地区自治会長をしてる



ゆるキャラ愛が地域を変える！

「よそのゆるキャラは役場が作っとるじゃろ。うちは民間がみんなで作った。これが自慢なんよ。」家にこもっていても何も変わらない、何か作って活動しようという思いから始まり、その言葉が今日も地域を少しずつ動かしています。



町のイベントには、ほとんど顔を出し、祭りや盆踊り、道の駅の催し物、時には広島まで遠征することも。訪れた場所では子どもたちが喜び、笑顔になるためやっぱりやめられないと2人は語ります。

少子高齢化が進む中で、ごんごんじいの存在はみんなの元気象徴になっています。

2人の会話から何度も聞こえてきたのは「恩返し」という言葉。都会から地元に戻ってきて、今度は地域に恩返しをしたいと思いきや様々な活動を始めました。W会長として支え合いながら、地元を支え続けています。

「物を売って儲ける気はさらさらないんですよ。でもゆるキャラを通して町を元気にする。それが達成できれば十分じゃ。」そんな活動も、もう8年目になります。



行動を起こすのは、誰かのために



吉賀町ふるさと応援大使
ごんごんじい

趣味：喋る、耕す、飲む！ 全部本気です！！！！！！



話題が趣味に移ると、和やかな笑い声とともに答えてくれました。「パチンコ？ギャンブル？いやいや、もう破産しかけたことあるからな（笑）」と山田さんが冗談を言う一方で、矢富さんは畑と真剣勝負の真っ最中だという。「トマトにきゅうり、スイカにピーマン…落花生にトウモロコシ、オクラもあるで。」畑で採れた野菜は、仲間や近所に配るのが楽しみとのこと。

※後継者求む！

ただ、ひとつ心残りは後継者探しだという。「誰かが引き継いでくれんといけんけえのお。」

笑顔で募集を呼びかける姿に、この地域の未来がまだまだ面白くなる予感しかありません。



仲良し同級生コンビが
地域を盛り上げる！
W会長は生涯現役！
健康のフルコース中！！！！

齋藤 盛彦 Saito Morihiko

→ 吉賀町のお助けマン！困ったら^{サイトウ}3110番にお電話を！



データ

生年：1952年（72歳）
出身：吉賀町蓼野
趣味：海釣り(兄や友人と！)

よく言われる第一印象
▶おとなしそう
よく居る場所
▶齋藤自動車、自宅
お仕事何してる／してた？
▶自動車屋さん
▶保育所理事長…



おじパワーで今日も駆けまわる！

島根県の小さな端っこの集落で、72歳の齋藤盛彦さんは今日も地域の人々の「困った！」に応えるべく、農業機械の修理から草刈り、地域法人の運営まで行っています。「困ったら盛さんに電話すればなんとかなる」と言われるほど地域から信頼厚い盛さんです。

多忙でも教育熱心

多忙な中、七光保育所の理事長もこなす齋藤さん。年上の子が年下の子を思いやり、年下の子は年上の子から学ぶといった、まるでひとつの大きな家族のように生活をする異年齢児交流保育を実施。また子どもたちの健やかな成長と、ご家庭の安心のために病後児保育の体制も作りました。

田舎は何もない…
ならみんなで作ればいい
じゃないか!!

By もりひこ



ごんごんじい誕生の立役者

田丸・山根地区自治会を中心に地域を元気づけるキャラクターづくりに奔走。絵が得意な姪っ子がデザインを担当し、地域の投票でキャラクターが決定。子どもたちに愛される“柔らかい鬼”が選ばれました。着ぐるみ製作費は150万円。公共助成金や寄付だけに頼らず、地区民1人1人から1万円ずつ募り、皆で“里の宝物”を作りあげたのです。

愛情をこめて作りました♡

着ぐるみが完成し、活躍の場が増えると同時に、活動資金が必要に。そこで立ち上げたのが「おもてなしの会」。名物の「やきむすび」を武器にイベントに出店。活動費を自分たちで稼いでいます。そして、ごんごんじいの物語を絵本化。齋藤さんが生み出した物語は多くの人を巻き込み今も展開中です。

取材班より

とにかく行動力が凄い齋藤さん。電話がかかればすぐ駆けつけてくれる吉賀町の頼もしいヒーローです！今日の吉賀町の平和はこの人にかかっている!!



有田 忍 Arita Shinobu

→ “モノがないなら作ればいい”～職人・有田 忍



データ

生年：1953年（72歳）
出身：吉賀町六日市
趣味：なし（遊びで木工）

よく言われる第一印象
▶こだわりがありそう
よく居る場所
▶自宅の作業場
お仕事何してた？
▶アパレル系の仕事



「ないなら作ればいい」から始まった

65歳で地元に戻ってきた有田さん。最初は暇つぶしのつもりで、家にあったデニムをリメイクし始めたのがきっかけ。やがて木工にハマり、作るモノがどんどん増えていきました。図面は使わず、ネットの画像から着想を得て感覚で組み立てていくスタイルは、まさに職人芸。



家の中も、外も、自分の手で

作業場の中の棚や扉だけでなく、外の空間もすべて手づくり。孫のためにブランコ、滑り台、ハンモック、ガーデンテーブルを製作。猫車を一輪から二輪に改造したり、室外機を木でカバーしたり、日常の中の「ちょっと不便」をアイデアと手しごとで解決していています。

作ることが、毎日のリズムになる

「次に作るものを探るのが楽しい」、使うために作る、暮らしの中で役立つものを増やす、という感覚が、有田さんの生活そのものを動かしています。

有田さんの一日	
5:00	起床＆朝ごはん＆散歩
9:00	作業
12:00	昼食＆お昼寝
13:30	再び作業
16:00	入浴＆ハンモックで夕寝
17:30	夕ご飯準備＆夕ご飯
21:00	就寝

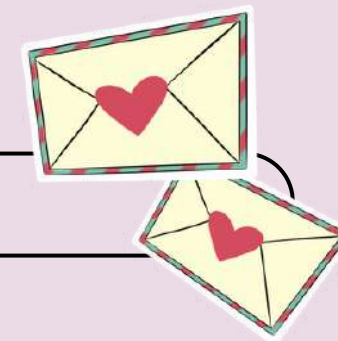
工夫と節約のなかに、豊かさがある

材料はもらいものや廃材が中心。「お金をかけないほうが、面白い」と話す有田さん。ものづくりの工夫のプロセスにこそ暮らしの豊かさを感じました

飽きたら
次を作りゃいい。



有田 忍
ありたしのぶ



→ “今がいちばん楽しい” ～若さを忘れない仲良し夫婦の毎日～

データ

生年：1943年（82歳）
出身：大阪市福島
趣味：釣り、料理、花、ゴルフ、陶芸、バレーボール、旅行

よく言われる第一印象

▶若いね★

よく居る場所

▶大野原グランドゴルフ場

お仕事何してる／してた？

▶造幣局



データ

生年：1948年（77歳）
出身：吉賀町七日市
趣味：音楽を聴くこと、カラオケ、グランドゴルフ、パチンコ、旅行 777

よく言われる第一印象

▶声をかけたくなる

よく居る場所

▶大野原グランドゴルフ場

お仕事何してる／してた？

▶造幣局

出会いは「造幣局のダンスパーティー」

造幣局に勤めていた田坂汪さんと恵さん。2人が出会ったのは、同じ職場で開かれたダンスパーティーでした。恵さんいわく、「造幣局のホールで、クリスマスの近くになるとダンスパーティーがあって、ヒロちゃんに『一緒に踊ろう』って誘われたのがきっかけ」とのこと。

その後は共通の趣味であるバレーボールを通じて仲を深め、「一緒になるか」という汪さんの何気ない一言が、自然なかたちでプロポーズに。バレーコートが沢山ある大阪の大きな公園でのことでした。



ロマンチック～！

多才な趣味と、器用な暮らし

汪さんは釣りや料理、庭仕事からアイロンがけまで「何でもできる」と恵さんも太鼓判。造幣局ではオリンピック記念硬貨や天皇陛下の金貨の製造にも関わり、すごく貴重な経験をお持ちです。

一方、恵さんはバレーボールや音楽、旅行が大好きで、カラオケや社交ダンスにも積極的に取り組まれてきました。「遊ぶことが好き。若い人にはなんでも挑戦してほしい」と話します。

お2人とも旅行が大好きで、2人で仲良く旅行されています。



「思いやり」と「束縛しない」関係

結婚生活についてお聞きすると、恵さんはこう話してくれました。

「結婚で大事なことは、お互いを思いやること。束縛しないこと。価値観が合うことも大事」

現在は、月のうち10日ほどを別々に過ごすこともあるというお2人。それぞれの時間も大切にしながら、「元気で、面白楽しく生きること」が信条です。

出会いを大切に生きる

退職後は、恵さんの実家がある地域に移り住み、ご兄弟の営む農業などを手伝いながら、新しい生活をスタートさせたお2人。「人との出会いを大切にしてきたから、今の幸せがある」と恵さんは語ります。

旅行でも多くの出会いや体験を重ね、ナイアガラの滝やハワイなど、海外での思い出もたくさん。親戚や地域の人とのつながりを何より大切にされています。

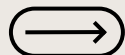
「今が一番幸せ」と言える暮らし

「贅沢せんかったら、十分に楽しく暮らせる」と語る汪さん。「命がいつまでであるかわからんけど、1日1日を面白楽しく大切に生きたい」と、恵さん。

お2人の言葉からは、何気ない日々を慈しみ、人との縁を丁寧に紡いできた豊かさが伝わってきます。



山谷 徹尚 Yamatani Tetsuhisa



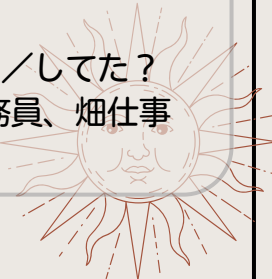
青春のやり直し、申請は今ここで。



データ

生年 1955年 (69歳)
出身 吉賀町七日市
趣味 落語、講談、浪曲

よくいる場所
▶ 田んぼ
仕事何してる／してた？
▶ 地方公務員、畑仕事



浦島太郎で帰ってきた故郷

山谷さんが吉賀町を離れたのは中学校卒業後のこと。それから県外で学び、就職。地方公務員として働き、地元とほとんど縁のない生活を送っていました。

Uターンして帰ってきたのは**40年ぶり**。それまでずっと外にいたため、まさに浦島太郎状態。昔お世話になった人たちはもう亡くなっており、今七日市に住む人たちにはどこの人？という顔をされたそう。しかし、ふるさとの風景は心の奥深くに残り続けていました。七日市には小学校、中学校があって人の気配がありましたが、昔整備されていた場所は空き家や、やぶとなり草や竹に覆われてしまった場所も多く寂しいと言います。



山谷さんの
おすすめ居酒屋
「かりゆし」の大将

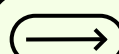
働きものは七日市の文化

山谷さんの思う七日市の魅力は働き者が多いこと。「特に70歳くらいまでの世代はよう働きますよ。子どもの頃から親の背中を見て育っているから、勤労の文化があるんでしょうね」。そんな風土が、田んぼ仕事を続ける自身にも影響している。**1日1回は何か動くをモットーに！**日々暮らされています。実際お会いして話しているととても69歳には見えない若々しさを感じました。

青春とは、未熟さを知り、努力すること

最後に、若い人へのメッセージを伺いました。「青春って、青い春と書きますが、年齢じゃない。自分の未熟さを知って、それを克服しようとする生き方、それが青春やと思う。間違えたなと思うこともある。でも、それも自分が選んだことなら受け入れるしかない。迷ったり悩んだりしながらも、自分で選んだ道を前向きに生きていく。それが60代になった今の自分の生き方」。山谷さんの青春もまだここ七日市で続いています。

稲倉 智 Inakura satoshi



吉賀町で輝く多才な社長



データ

生年：1955年 (70歳)
出身：吉賀町抜月
趣味：陶芸、鶏飼育、
猫の付き添い

よく言われる第一印象
▶ 天真爛漫
よく居る場所
▶ 隠れ家、山
お仕事何してる？
▶ 吉賀レミコン社長

自然を遊びつくす
人生社長

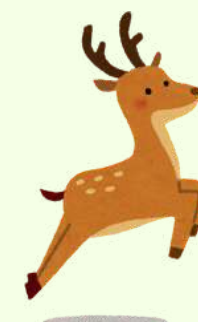
仕事と家業

生コンクリート（レミコン）の社長をしている稲倉さん。お父様が52歳で亡くなったのをきっかけに吉賀町に帰ってから家業を継いで長年経営を続けてこられました。

趣味や狩猟、地域活動にも積極的に取り組みながら、仕事と両立されています。

多彩な趣味に彩られた暮らし

陶芸（焼き物）では皿やコップなど様々な作品を友人にプレゼント。また自宅でニワトリを飼い、卵を取り、自然に近い暮らしを楽しんでいます。さらにイノシシやシカ、キツネなどを友人と罠で捕まえ、肉は冷凍保存や、ご近所さんにお裾分けしたりしてワイルドな生活を送っています。



地域活動と子どもたちへの伝承

地域の名人会などでしめ縄作りを指導したり、保育園や子どもたちと一緒に栗拾いに行ったりと、地元の伝統や自然体験を次世代に伝える活動も大切にしています。

地域の課題と若者への願い

農業や猫の話題では、若い人が戻らず後継者不足が進んでいる現状への強い危機感を話されました。「若者に帰ってきてほしい」「自分の国で食料を作れることが一番大事」と、地域や日本の未来を真剣に考える姿勢が印象的です。

水上 真悟 Mizukami Shingo

→ めっちゃ楽しい 地域と子どもをつなぐ、水上さんの挑戦

データ

生年：1982年（43歳）
出身：益田市
趣味：釣り
よく言われる第一印象
▶人懐っこい
よく居る場所
▶自宅、職場
お仕事何してる？
▶派遣社会教育主事



「あんなおっちゃん、おったなあ」

水上さんの目指す社会教育

「大人になったとき、あのときの“おっちゃん”を思い出してもらいたい」と語る水上さん。その思い出が子どもたちの地域で活動する魅力ある大人への成長につながって欲しいそうです。PTA活動を、ただの学校内の役割にとどめるのではなく、地域や多世代とつながる「社会教育」の一環と位置づけています。

水上さんがPTA活動で大切にされているのは、「子どもに構えさせないこと」。活動の最後に大人が直接「どうだった？次何したい？」と子どもに聞くと、緊張してしまいます。

打ち上げをして自然な流れで子どもたちの本音を聞くことを大切にされています。



PTA界の革命児 水上真悟

七日市小学校のPTA会長を務め、現在もPTAに尽力されている水上さんは、従来の“義務感”で成り立っていたPTA活動を、「楽しみながら」「やりたいことを」「できる人がやる」スタイルへと変革してきました。

子どもたちの「思い出」をつくる

水上さんは「春夏秋冬で子どもたちに思い出をつくる」活動に取り組んできました。春には校歌にも登場する盛太ヶ岳の登山を、夏には小学校の校庭でソロキャンプを実施。冬には住民も巻き込んだ大掃除を行いました。

それぞれの活動には、「子どもがやりたいこと」「全員が本気で楽しめること」を基準に計画されており、強制ではない、ゆるい雰囲気大切にされているそうです。

「めっちゃ楽しい」～水上さんの原動力

水上さんが行う活動の原動力には子どもが好き、人と関わるのが好きという気持ちのほか、「子どもたちにいろんな体験をさせたい」という思いがあるとのこと。そして何よりも「自分もやっていてめっちゃ楽しい」ということが原動力になっているのだそうです。

松原 佳毅 Matsubara Yoshiki



→ 目が覚めたら七日市でした ～私の399個の秘密～

データ

生年 1983年（42歳）
出身 吉賀町七日市
趣味 子どもの試合の応援

よく言われる第一印象
▶めっちゃ話す！

仕事何してる？
▶役場



七日市の子どもたちと、 今日も全力で遊ぶ大人がいる

保育園から高校まで、地元・七日市で育った松原さん。大学進学で九州へ渡った後、再び地元に戻り、現在は役場に勤務しています。

地域活動にも積極的にに関わり、体育協会、子ども会の実行委員、小中学校のPTA副会長、保護者会など、幅広い役割を担っています。特に、子どもたちの野球やバレーボール、地域イベントへの関わりは深く、神楽の運営やソフトボールの企画など、地域行事には欠かせない存在です。

「何かの役職につくと、自分から提案や計画がしやすくなる」と語る松原さん。先生や保護者とのつながりが生まれ、そして何より子どもたちと一緒に活動できることが、やりがいの源です。

子ども大好きです♡

うちの子は、地域の子。育てるのは、みんなの手

子どもたちのことを「地域の子」「うちの子」として支える。それが松原さんの信条であり、自身もそう育てられてきたといいます。バーベキュー、川遊び、スポーツなどの体験を通して、子どもたちと一緒に「楽しむこと」を何より大切にしています。

未来は考えすぎない。だから今が、最高に輝く

先のことを考えるのはあまり得意じゃない。だからこそ、今この瞬間を大事にして、やりたいことをやって生きて欲しい。今を楽しむ。これを若い人に伝えたい。





「“やる人”がいれば、町は生きる」

この町で
走り続ける



データ

生年：1963年（62歳）
出身：吉賀町柿木村木部谷
趣味：釣り、バドミントン
活動：吉賀町体育協会会長、
七日市元気団会長、七日市怜
人会会長ETC...



よく居る場所
▶イベント会場
お仕事何してる？
▶ガソリンスタンド勤め

生まれ育ったこの町でもう一度

一度は広島へ出たが、「なんやかんやあって」19歳で地元に戻り。今じゃすっかり「町の顔」。ガソリンスタンド勤務の傍ら、年間10本以上の地域イベントに関わり大活躍。「人が集まる場がなくなれば町は元気を失う。町がしょんぼりするけん、俺が町を元気にしてやるんですわ」と、公民館でも笑顔と人の輪を生み出しているとなよ。

「伝える」じゃなく「一緒にやる」

山崎さんは、昔からの行事を次の世代にちゃんと渡さんといけん、しめ縄づくりにも精を出しとるんよ。中高生と一緒にわらをねじりながら、「最初はぎこちのうてもええんよ、やってみんと意味なんてわからんけん」と、ゆっくり教えちゃうんよ。

盆踊りの「口説き」も自分で習って歌いよる。「ワシが歌わんと誰も歌わんけん」と言うその姿、子どもたちもしっかり見とるんよ。そういう姿が、ちゃんと残るんよなあ。

イベント場は「繋ぐ場、希望の場」

「町に火を灯すんは、特別な誰かやのうて、“動いた誰か”じゃけん」と、七日市で何十もの行事を立ち上げてきた山崎さんは言う。「盆踊りも花火も、一回なくなったけん、わしが復活させたんよ。誰かがやらにゃ、消えるだけじゃけえの」。一人が動けば、人が集まり、町が動き出す。そうやってイベントが“町の記憶”になっていくんじゃ。

町の灯は自分たちでともすんよ

「町に火を灯すんは、特別な誰かやのうて、“動いた誰か”じゃけん」——七日市で何十もの行事を立ち上げてきた山崎さんは言う。「盆踊りも花火も、一回なくなったけん、わしが復活させたんよ。誰かがやらにゃ、消えるだけじゃけえの」。一人が動けば、人が集まり、町が動き出す。そうやってイベントが“町の記憶”になっていくんじゃ。



編集後記

今回の冊子は、取材の候補者探し、アポとり、インタビュー、執筆、紙面づくりなどを全て島根県立大学 浜田キャンパス地域政策学部地域づくりコース2回生の学生たちが担当しました。初めての経験で慣れないことも多くありましたが、地域の方々の魅力に直に触れることができていい経験をさせていただきました。



西嶋一泰 編集

学生ともども、大変お世話になりました！この七日市の魅力をぜひ子どもたちにも感じてほしいです！



中村美涼 担当：7p 8p 9p

作る上で、その人らしさを最大限に出すにはどうすればいいか考えるのは難しかったが、楽しく作成できました。



油谷佳映 担当：4p 5p 6p

七日市の方々がとても温かくて、話していてとても楽しく素敵な時間を過ごすことができました。



武馬良樹 担当：3p 12p

七日市という場所やそこに住む方々の魅力が「おじコレ」を作ることを通して発見出来たと思います。



甲斐颯真 担当：10p 13p

取材を通して、どの方も明るく元気な方ばかりで、沢山のお話を視聴でき、とても良い冊子に仕上がりました！



前響姫 担当：4p 5p 6p

おじさんのキャラクターを存分に落とし込むためにデザインやふざけ方を考えることが大変でした。



藏元颯大 担当：10p 13p

インタビューをした時に人生の先輩としてお言葉を貰い、とても勉強になりました！



森上蒼太 担当：10p 13p

インタビューと冊子作りすごく楽しかったです！お話ししていただきありがとうございました。



坂根大空 担当：11p 14p

七日市には多くの面白いおじさんがいてインタビューしたらすごい興味深い話が聞けていい作品ができました



安田美唯 担当：4p 5p 6p

緊張していた中、「見つからなければ声をかけて」と言ってくださり嬉しかったです。



千頭琳 担当：3p 12p

実際に地域で活動するのは初めてでしたが、皆さん温かく迎えてくださり、楽しく活動できました！



矢田倭大 担当：11p 14p

地域で人に注目したことがなかったのでおじコレを作ってみて地域を盛り上げる人の重要性を感じました。



土本晟豪 担当：3p 12p

実際に吉賀町に住んでいる人とインタビューを通して話したりしたことで吉賀町を好きになりました。



山本心南 担当：7p 8p 9p

書きたい話がいっぱいあってまとめるのが難しかったけど、個性あふれる「おじコレ」を作れてよかったです。



富岡諒太 担当：7p 8p 9p

おじコレを作ってみて、地域の方々と触れ合い皆さんの面白さについてしれ、良い経験になりました。



和田拓朗 担当：11p 14p

七日市の方々と一緒に楽しい時間を過ごすことができました！ありがとうございました！

合宿の受入れや調整をしていただいた七日市公民館のみなさま、取材に協力いただいた七日市のみなさま
本当にありがとうございました！